

「モニタリングの手引き」新旧対照表

新	旧
<p>(6) 内水面生態系の維持・保全・改善</p> <p>&lt;日常モニタリング&gt;</p> <p><b>【清掃活動】</b></p> <p>台風等による出水、連休や夏期休暇といったレジャーのハイシーズンの後には、ゴミの量が増えることが予想されるので、その前後に定点を決めて写真を撮っておくなど、活動地域の状況をその都度記録をとっておきます。</p> <p>また、粗大ゴミ等の不法投棄についても、廃棄物の種類や捨てられた場所等の情報を記録します。</p> <p><b>【石倉かごの設置や河床耕耘等の環境改善活動】</b></p> <p>水温や水量のほか、台風等による出水の影響（石倉かごの破損や石倉かご内や周辺での土砂の堆積、耕耘場所の砂利の流失や土砂の堆積）等の環境に関する情報を記録しておきます</p> <p><b>【外来生物の除去】</b></p> <p>除去を行う外来生物及び外来生物によって影響を受ける魚介類の生息状況に関する情報を収集します。オオカナダモ等の水草は、繁茂の状況を観察しておきます。オオクチバス等の魚貝類は、組合員から生息状況や混獲等に関する情報を収集します。</p> <p>また、都道府県の水産研究機関からも、当該生物の生息状況等を確認しておきます。</p> <p>&lt;定期モニタリング&gt;</p> <p><b>【清掃活動】</b></p> <p>清掃活動を実施する地点の付近に生息する魚類や水生昆虫等の個体数を把握します。定期モニタリングは、年1回以上を同じ時期に実施します。</p> <p><b>併せて、</b>ゴミの<b>処理</b>量や種類（ペットボトルや空き缶等の容器類、レジ袋に入ったゴミ、古タイヤ等）を<b>記録</b>します。<b>また、</b>ゴミの来歴（遊漁等のレジャー客が捨てたもの、上流から流れてきたり近隣から飛ばされたもの等）を類推しておく、啓発を行うべき対象が絞り込めるメリットがあります。</p>	<p>(6) 内水面生態系の維持・保全・改善</p> <p>&lt;日常モニタリング&gt;</p> <p><b>【清掃活動】</b></p> <p>台風等による出水、連休や夏期休暇といったレジャーのハイシーズンの後には、ゴミの量が増えることが予想されるので、その前後に定点を決めて写真を撮っておくなど、活動地域の状況をその都度記録をとっておきます。</p> <p>また、粗大ゴミ等の不法投棄についても、廃棄物の種類や捨てられた場所等の情報を記録します。</p> <p><b>【石倉かごの設置や河床耕耘等の環境改善活動】</b></p> <p>水温や水量のほか、台風等による出水の影響（石倉かごの破損や石倉かご内や周辺での土砂の堆積、耕耘場所の砂利の流失や土砂の堆積）等の環境に関する情報を記録しておきます</p> <p><b>【外来生物の除去】</b></p> <p>除去を行う外来生物及び外来生物によって影響を受ける魚介類の生息状況に関する情報を収集します。オオカナダモ等の水草は、繁茂の状況を観察しておきます。オオクチバス等の魚貝類は、組合員から生息状況や混獲等に関する情報を収集します。</p> <p>また、都道府県の水産研究機関からも、当該生物の生息状況等を確認しておきます。</p> <p>&lt;定期モニタリング&gt;</p> <p><b>【清掃活動】</b></p> <p>清掃活動を実施する地点の付近に生息する魚類や水生昆虫等の個体数を把握します。定期モニタリングは、年1回以上を同じ時期に実施します。</p> <p>また、ゴミの量や種類（ペットボトルや空き缶等の容器類、レジ袋に入ったゴミ、古タイヤ等）を把握するとともに、回収したゴミの来歴（遊漁等のレジャー客が捨てたもの、上流から流れてきたり近隣から飛ばされたもの等）を類推しておく、啓発を行うべき対象が絞り込めるメリットがあります。</p>

**【石倉かごの設置や河床耕耘等の環境改善活動】**

石倉かごに入った魚類等の種類と数を把握します。河床耕耘では、魚類等の産卵状況や水生生物の個体数等を記録します。定期モニタリングは、年1回以上を同じ時期に実施し、その方法は以下の例を参考にしてください。

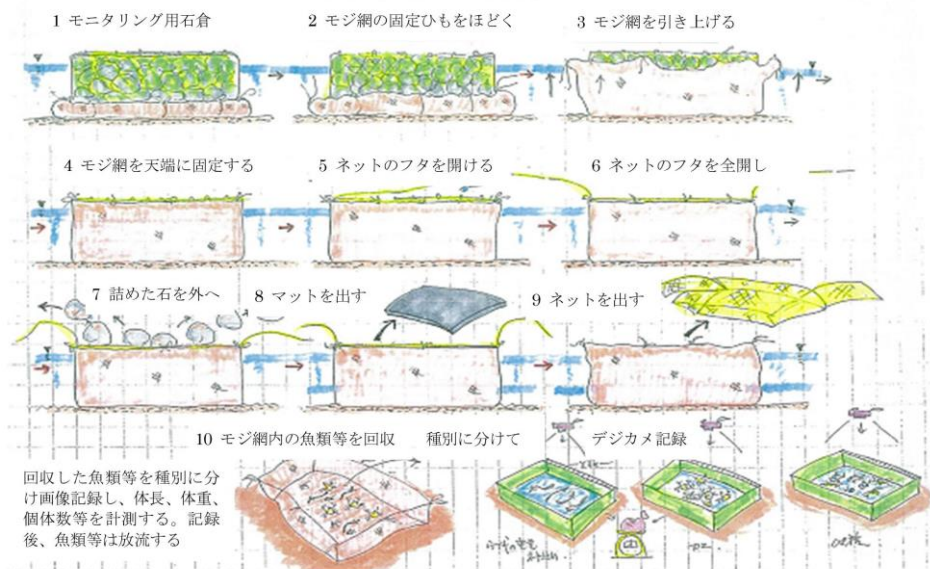


図 2.5 石倉カゴのモニタリング（手作業による引き揚げの事例）

**【外来生物の除去】**

食害や生息場所の競合等により、外来生物の影響を受けると考えられる生物の一定面積当たりの量を把握します。定期モニタリングは、年1回以上を同じ時期に実施し、その方法は以下の例を参考にしてください。

また、除去した外来生物の重量も記録しておきます。

■ 「内水面生態系の維持・保全・改善」における定期モニタリングの例

河川湖沼に生息する魚介類の一定面積当たりの個体数（生息密度）およびゴミ類の一

**【石倉かごの設置や河床耕耘等の環境改善活動】**

石倉かごに入った魚類等の種類と数を把握します。河床耕耘では、魚類等の産卵状況や水生生物の個体数等を記録します。定期モニタリングは、年1回以上を同じ時期に実施し、その方法は以下の例を参考にしてください。

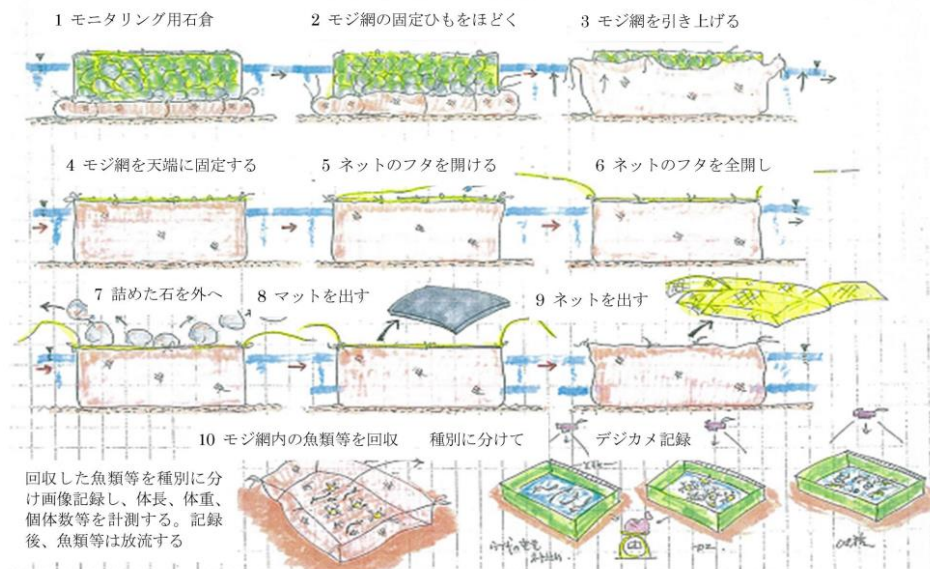


図 2.5 石倉カゴのモニタリング（手作業による引き揚げの事例）

**【外来生物の除去】**

食害や生息場所の競合等により、外来生物の影響を受けると考えられる生物の一定面積当たりの量を把握します。定期モニタリングは、年1回以上を同じ時期に実施し、その方法は以下の例を参考にしてください。

また、除去した外来生物の重量も記録しておきます。

■ 「内水面生態系の維持・保全・改善」における定期モニタリングの例

河川湖沼に生息する魚介類の一定面積当たりの個体数（生息密度）およびゴミ類の一

定面積当たりの量（重量、容積）を把握する。協定面積内の生物量は、一定面積当たりの生物量を調査し、それを協定面積に引き延ばして計算する。

表 2.8 モニタリングの目安

モニタリング地点の設定	当該年に活動を行う面積内に適宜設定し、毎年同じ場所をモニタリングする。 ただし、活動面積の範囲を超えて協定面積を設定する場合には、必要に応じて超えた範囲内にもモニタリング地点を設定する。
成果指標の例 (増加させる生物)	底生生物、水生昆虫、エビ・カニ類、魚類、マコモ等の植物等
(増加させる生物以外の指標例)	定点における一定面積当たりのゴミの量（重量・容積等）、ゴミの回収量、オオカナダモ等の駆除量、一定面積当たりの産卵数、生物の種類数等
調査方法	平成 27 年度水産多面的機能発揮対策講習会 講習テキスト（技術編）「「地域環境保全」活動の事業評価について」を参照のこと

① 魚類を対象としたモニタリング方法

投網とタモ類による捕獲方法を紹介する。採集した魚は、白色のバットや観察用のアクリル水槽に入れると、色や形などが詳しくわかり、写真も撮りやすくなる。

表 2.9 魚類の調査方法

調査方法	適した場所	努力量の目安	対 象 魚
投網による捕獲	水深の浅い場所、平瀬等の開けた場所	各調査対象環境区分でそれぞれ 5 回程度	・アユ、ウグイ、オイカワ等 遊泳魚全般 ・底生魚のうち、カマツカ等の大型の魚種

定面積当たりの量（重量、容積）を把握する。協定面積内の生物量は、一定面積当たりの生物量を調査し、それを協定面積に引き延ばして計算する。

表 2.8 モニタリングの目安

モニタリング地点の設定	当該年に活動を行う面積内に適宜設定し、毎年同じ場所をモニタリングする。 ただし、活動面積の範囲を超えて協定面積を設定する場合には、必要に応じて超えた範囲内にもモニタリング地点を設定する。
成果指標の例 (増加させる生物)	底生生物、水生昆虫、エビ・カニ類、魚類、マコモ等の植物等
(増加させる生物以外の指標例)	定点における一定面積当たりのゴミの量（重量・容積等）、ゴミの回収量、オオカナダモ等の駆除量、一定面積当たりの産卵数、生物の種類数等
調査方法	平成 27 年度水産多面的機能発揮対策講習会 講習テキスト（技術編）「「地域環境保全」活動の事業評価について」を参照のこと

① 魚類を対象としたモニタリング方法

投網とタモ類による捕獲方法を紹介する。採集した魚は、白色のバットや観察用のアクリル水槽に入れると、色や形などが詳しくわかり、写真も撮りやすくなる。

表 2.9 魚類の調査方法

調査方法	適した場所	努力量の目安	対 象 魚
投網による捕獲	水深の浅い場所、平瀬等の開けた場所	各調査対象環境区分でそれぞれ 5 回程度	・アユ、ウグイ、オイカワ等 遊泳魚全般 ・底生魚のうち、カマツカ等の大型の魚種

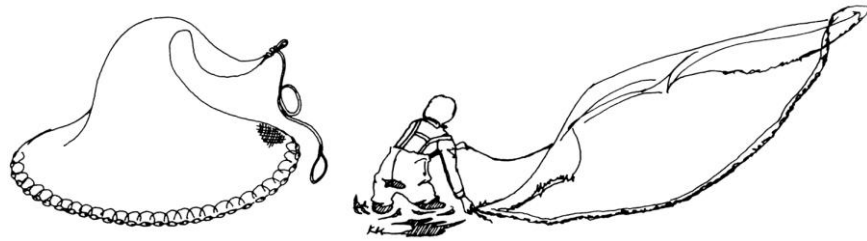
タモ網による捕獲	河岸植物帯、沈水植物帯、河床の石の下、砂・泥	1 調査地区あたり 1 人×1 時間程度	・ヤツメウナギ科、コイ科、ドジョウ科、ハゼ科等の小型魚種 ・幼稚魚全般
----------	------------------------	----------------------	----------------------------------------

### 【投網によるモニタリング】

投網は、水深の浅い場所や平瀬等の開けた場所にいる魚の捕獲に有効だが、採捕許可が必要となる場合があるので、地域のルールに従って行う。

12mm 及び 18mm 程度の 2 種類の目合を用いることが望ましいが、捕獲対象とする魚種や水深等の状況に合わせて適切な目合を選ぶようにする。

投網の打ち数は、各調査対象環境区分でそれぞれ 5 回程度を目安とし、採捕された生物をすばやく水槽等に入れ、種類や量を計測する。



### 【タモ網によるモニタリング】

タモ網は河岸植物帯、沈水植物帯、河床の石の下での捕獲や、砂・泥に潜っている比較的小さな魚種の捕獲に有効である。

袋網は、網目 1mm 程度、長さがタモ網の口径の約 1.5~2 倍程度のものを基本とし、口径、柄の長さ等の違う種類のを現地の状況に応じて使い分けるようにする。河床及び河岸に対し隙間なく固定できるように先端が直線状のものを使用する。

採捕された生物をすばやく水槽等に入れ、種類や量を計測する。



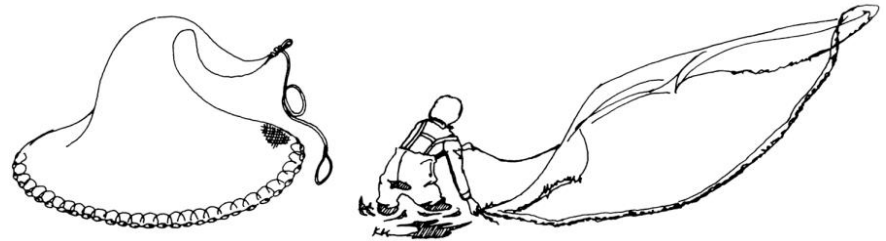
タモ網による捕獲	河岸植物帯、沈水植物帯、河床の石の下、砂・泥	1 調査地区あたり 1 人×1 時間程度	・ヤツメウナギ科、コイ科、ドジョウ科、ハゼ科等の小型魚種 ・幼稚魚全般
----------	------------------------	----------------------	----------------------------------------

### 【投網によるモニタリング】

投網は、水深の浅い場所や平瀬等の開けた場所にいる魚の捕獲に有効だが、採捕許可が必要となる場合があるので、地域のルールに従って行う。

12mm 及び 18mm 程度の 2 種類の目合を用いることが望ましいが、捕獲対象とする魚種や水深等の状況に合わせて適切な目合を選ぶようにする。

投網の打ち数は、各調査対象環境区分でそれぞれ 5 回程度を目安とし、採捕された生物をすばやく水槽等に入れ、種類や量を計測する。



### 【タモ網によるモニタリング】

タモ網は河岸植物帯、沈水植物帯、河床の石の下での捕獲や、砂・泥に潜っている比較的小さな魚種の捕獲に有効である。

袋網は、網目 1mm 程度、長さがタモ網の口径の約 1.5~2 倍程度のものを基本とし、口径、柄の長さ等の違う種類のを現地の状況に応じて使い分けるようにする。河床及び河岸に対し隙間なく固定できるように先端が直線状のものを使用する。

採捕された生物をすばやく水槽等に入れ、種類や量を計測する。



### 【釣りによるモニタリング】

漁協組合員や遊漁者に調査票を配付し、釣りに行った日や釣獲魚の種類と個体数の記録を依頼する。回収した調査票から、魚種ごとの個体数の総数を求め、これを釣りをした人数で割り、1人1回あたりの釣獲個体数の平均値を指標とする。

また、遊漁者から採捕数を聞き取る「びく調査」も有効である。聞き取った釣獲個体数から、平均値を求める。

### 【産卵場（産卵が行われた場所）の確認】

産卵状況を確認する方法は、大きく分けて「①産卵場所の数をかぞえる」、「②単位面積あたりの卵の数をかぞえる」、「③稚魚の数をかぞえる」、「④幼魚の数をかぞえる」の4つがある。

対象とする魚種の産卵生態に合わせて、より簡易な方法を選んで実施する。河床に産卵するサケ科魚類やウグイやオイカワ等は、産卵床の数を確認する、ヨシ帯等でコイやフナの産卵状況を確認するなら稚魚の数を比較するといった方法がある。

### 【陸上からの目視】

大型のコイ等の個体数を確認するのに有効な方法で、橋の上や川岸の岩の上から魚を観察する。静止するかごくゆっくり動く人間に対しては、魚はあまり警戒せず数メートルの距離から観察することができる。

### ② 底生動物を対象としたモニタリング方法

まず、採集する面積を決め、塩ビパイプ等で予め方形枠を作り、それを沈めて枠内の石から採集する。基本的には目合0.493mm(NGG38)のDフレームネット、サデ網等を用い、必要に応じて様々な採集用具を用いて調査を行う。

タモ網で採集したら砂やゴミと一緒にバットに移して、底生動物だけをピンセットなどを用いてより分ける。

### 【釣りによるモニタリング】

漁協組合員や遊漁者に調査票を配付し、釣りに行った日や釣獲魚の種類と個体数の記録を依頼する。回収した調査票から、魚種ごとの個体数の総数を求め、これを釣りをした人数で割り、1人1回あたりの釣獲個体数の平均値を指標とする。

また、遊漁者から採捕数を聞き取る「びく調査」も有効である。聞き取った釣獲個体数から、平均値を求める。

### 【産卵場（産卵が行われた場所）の確認】

産卵状況を確認する方法は、大きく分けて「①産卵場所の数をかぞえる」、「②単位面積あたりの卵の数をかぞえる」、「③稚魚の数をかぞえる」、「④幼魚の数をかぞえる」の4つがある。

対象とする魚種の産卵生態に合わせて、より簡易な方法を選んで実施する。河床に産卵するサケ科魚類やウグイやオイカワ等は、産卵床の数を確認する、ヨシ帯等でコイやフナの産卵状況を確認するなら稚魚の数を比較するといった方法がある。

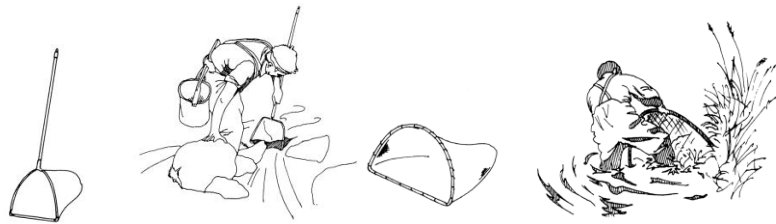
### 【陸上からの目視】

大型のコイ等の個体数を確認するのに有効な方法で、橋の上や川岸の岩の上から魚を観察する。静止するかごくゆっくり動く人間に対しては、魚はあまり警戒せず数メートルの距離から観察することができる。

### ② 底生動物を対象としたモニタリング方法

まず、採集する面積を決め、塩ビパイプ等で予め方形枠を作り、それを沈めて枠内の石から採集する。基本的には目合0.493mm(NGG38)のDフレームネット、サデ網等を用い、必要に応じて様々な採集用具を用いて調査を行う。

タモ網で採集したら砂やゴミと一緒にバットに移して、底生動物だけをピンセットなどを用いてより分ける。



Dフレームネット

さで網

**【ゴミ類の種類と処理量の記録】**

清掃活動で回収したゴミは、回収日（または処理日）ごとに人工ゴミと自然ゴミに分類し、それぞれの容積（または重量）を記録する。

また、可能な限り人工ゴミについては、プラスチック類とその他に分類して計量する。

**<自己評価>**

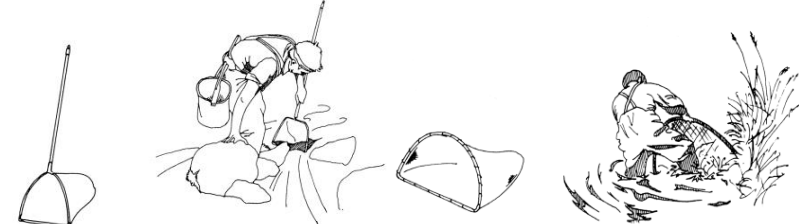
各モニタリング定点で記録した魚類や水生昆虫等の個体数や重量を自己評価表に記入します。

そのほか、定量的な変化だけでなく、きれいな河川にしか生息しないと言われる生物が見られるようになってきたとか、住民の意識向上により捨てられるゴミの量が減ってきたとか、河川訪れる人が増えてきたとか、流域住民の評価を記録するといった、定性的な変化についても把握するよう努めてください。特に「対象水域における生物量」が減少した場合でも、こうした変化があれば、自己評価表の「【①成果実績が目標値を下回ったときはその理由、②次年度に向けた改善策及び③適宜評価項目以外の活動の成果を記入してください。】」に記載してください。

**(7) 漂流、漂着物、堆積物処理**

**<日常モニタリング>**

河川の出水、ゴミの堆積・分布・移動、打ち上げ藻、動物（ウミガメ、魚介類）や卵（ハ



Dフレームネット

さで網

**<自己評価>**

各モニタリング定点で記録した魚類や水生昆虫等の個体数や重量を自己評価表に記入します。

そのほか、定量的な変化だけでなく、きれいな河川にしか生息しないと言われる生物が見られるようになってきたとか、住民の意識向上により捨てられるゴミの量が減ってきたとか、河川訪れる人が増えてきたとか、流域住民の評価を記録するといった、定性的な変化についても把握するよう努めてください。特に「対象水域における生物量」が減少した場合でも、こうした変化があれば、自己評価表の「【①成果実績が目標値を下回ったときはその理由、②次年度に向けた改善策及び③適宜評価項目以外の活動の成果を記入してください。】」に記載してください。

**(7) 漂流、漂着物、堆積物処理**

**<日常モニタリング>**

タハタなど)、ウミガメやクジラなどの漂着、地域で報道された異常気象情報(豪雨や暴風など)など、活動対象区域周辺の状況をその都度記録します。

#### <定期モニタリング>

定期モニタリングは年1回以上、各年度で同じ時期に実施します。モニタリング方法は、以下の例を参考にしてください。

#### ■「漂流、漂着物、堆積物処理」における定期モニタリングの例

ゴミ類が漂流、漂着、堆積する海岸、またはそれに近接する海域に生息する魚介類、海藻類の一定面積における個体数や被度を把握する。併せて、ゴミ類の処理量を記録する。

##### 1) 魚介類、海藻類の生息状況の把握

###### ①モニタリング定点の設定

協定面積内をメッシュで区切り、各メッシュにモニタリング定点を設定する。または岸から沖に向かって複数本の調査ラインを引き、主として潮間帯に2点以上のモニタリング定点を設定する(「協定面積に応じたモニタリング定点数の目安」を満たすこと)。

※水産有用種など、対象とする生物種あるいは分類群を特定した上でモニタリングを実施することが望ましい。

※海藻類を対象とする場合は、「(1)藻場の保全」を、魚類等を対象とする場合は「(3)種苗放流」を、二枚貝類等の底生生物を対象とする場合は、「(4)干潟等の保全」を参照のこと。

###### ② その他の記録項目

(1)、(3)、(4)を参照のこと。

河川の出水、ゴミの堆積・分布・移動、打ち上げ藻、動物(ウミガメ、魚介類)や卵(タハタなど)、ウミガメやクジラなどの漂着、地域で報道された異常気象情報(豪雨や暴風など)など、活動対象区域周辺の状況をその都度記録します。

#### <定期モニタリング>

定期モニタリングは年1回以上、各年度で同じ時期に実施します。モニタリング方法は、以下の例を参考にしてください。

#### ■「漂流、漂着物、堆積物処理」における定期モニタリングの例

ゴミ類が漂流、漂着、堆積する海岸、またはそれに近接する海域に生息する魚介類、海藻類の一定面積における個体数や被度を把握する。併せて、ゴミ類の一定面積における量(被度や容積、重量)を把握する。

##### 1) 魚介類、海藻類の生息状況の把握

###### ①モニタリング定点の設定

協定面積内をメッシュで区切り、各メッシュにモニタリング定点を設定する。または岸から沖に向かって複数本の調査ラインを引き、主として潮間帯に2点以上のモニタリング定点を設定する(「協定面積に応じたモニタリング定点数の目安」を満たすこと)。

※水産有用種など、対象とする生物種あるいは分類群を特定した上でモニタリングを実施することが望ましい。

※海藻類を対象とする場合は、「(1)藻場の保全」を、魚類等を対象とする場合は「(3)種苗放流」を、二枚貝類等の底生生物を対象とする場合は、「(4)干潟等の保全」を参照のこと。

###### ② その他の記録項目

(1)、(3)、(4)を参照のこと。

## 2) ゴミ類の処理量の記録 (必須)

回収したゴミ類は、回収日(または処理日)ごとに人工ゴミと自然ゴミに分類し、それぞれの容積(または重量)を記録する。人工ゴミについては、可能な限り、プラスチック類とその他に分類して計量する。また、人工ゴミの主な内訳(種類)を記録する。

① 削除

② 削除

### <自己評価>

各モニタリング定点における魚介類の生息密度や海藻類の被度の平均値を「本年度実績の対象生物の量」の欄に記入します。自己評価表にゴミ類の処理量のデータを添付してください(4. モニタリング結果整理表を参照)。

### 3. 自己評価表 (平成 29 年度～)

## 2) ゴミ類の分布状況の把握

### ① モニタリング定点の設定

協定面積全体のゴミの量が把握できるよう、適宜モニタリング定点を設定する。清掃活動によって、協定面積内のゴミの全量を除去できる場合には、モニタリング定点を設定せず、除去量のみを記録でもかまわない。

### ② ゴミ類の分布量の記録

各モニタリング定点において、一定面積(10m×10m)を覆うゴミ類の被度(%)と容積、重量を記録し、協定面積全体のゴミの量を推定する。また、清掃活動によって回収したゴミの量(容積、重量)から除去率を算出する。

協定面積におけるゴミ類の全容積は、一定面積(10m×10m)におけるゴミ類の被度と平均的な高さ(堆積厚)を乗じた値から推定し、全重量は、一定面積(10m×10m)におけるゴミ類の重量から推定する(それぞれ、人工ゴミと自然ゴミに分類して計測することが望ましい)。

### <自己評価>

各モニタリング定点における魚介類の生息密度や海藻類の被度の平均値を「本年度実績の対象生物の量」の欄に記入します。自己評価表にゴミ全量の推定値と清掃活動による除去率のデータを添付してください(4. モニタリング結果整理表を参照)。

### 3. 自己評価表 (平成 28 年度版)



添付様式16

自己評価表  
(環境・生態系保全)

平成29年度

道府県名:

市町村名:

活動組織名:

部分に数字を記載して下さい。

活動項目:(添付様式16別紙の活動項目①～⑨から選択)

成果指標:対象水域における生物量の増加	目標値:対象生物量の5%以上増加
対象生物:	(各活動項目で設定)
前年度の対象生物量等:	本年度実績の対象生物量等:
平成28年度の対象生物量	平成28年度からの生物増加量(%)
成果実績(本年度実績の対象生物量等/前年度の対象生物量等×100)(%)	
達成度(成果実績/目標値(5%)×100)(%)	
協定面積(ha):	本年度の活動面積(ha):
本年度活動した人数(延べ)A:	Aのうちボランティア(*1)の人数(延べ):
Aのうち構成員の人数(延べ):	*1:ボランティアの定義:構成員ではないが、活動に参加した人

項目	評価の視点	配点	点数	ウエイト	項目の評価点 (点数×ウエイト)
成果目標	前年度より対象生物が5%以上増加	5点	0.4		
	前年度より対象生物が3%以上5%未満増加	4点			
	前年度より対象生物が1%以上3%未満増加	3点			
	前年度より対象生物が0%以上1%未満増加	2点			
	前年度より対象生物が減少した	1点			
	前年度より対象生物が減少した	1点			
組織体制	構成員に漁業者以外が参画し、実際に活動している(活動人数全体に占める漁業者以外の人数5%以上)	5点	0.3		
	構成員に漁業者以外が参画し、実際に活動している(活動人数全体に占める漁業者以外の人数3%以上5%未満)	4点			
	構成員に漁業者以外が参画し、実際に活動している(活動人数全体に占める漁業者以外の人数1%以上3%未満)	3点			
	構成員に漁業者以外が参画し、実際に活動している(活動人数全体に占める漁業者以外の人数0%以上1%未満)	2点			
	構成員に漁業者以外が参画しているが、実際の活動はしていない	1点			
	構成員に漁業者以外が参画しているが、実際の活動はしていない	1点			
横展開	講習会、報告会やその他事例を参考に、自らの活動に積極的に取り入れ、改善が図られた	5点	0.3		
	講習会、報告会やその他事例を参考に、自らの活動に積極的に取り入れた	4点			
	講習会、報告会やその他事例を参考に、自らの活動に取り入れるべく検討を行った	3点			
	講習会や報告会に参加するなど他の活動組織の事例の情報収集を行った	2点			
	講習会や報告会に参加するなど他の活動組織の事例の情報収集を行った	2点			
	他の活動組織の事例を参考にしなかった	1点			

評価点(5点満点)

【①成果実績が目標値を下回ったときはその理由、②次年度に向けた改善策及び③適宜評価項目以外の活動の成果を記入して下さい。】

添付様式16

自己評価表  
(環境・生態系保全)

平成28年度

道府県名:

市町村名:

活動組織名:

部分に数字を記載して下さい。

活動項目:(添付様式16別紙の活動項目①～⑨から選択)

成果指標:対象水域における生物量の増加	目標値:対象生物量の5%以上増加
対象生物:	(各活動項目で設定)
前年度の対象生物量等:	本年度実績の対象生物量等:
平成28年度の対象生物量	平成28年度からの生物増加量(%)
成果実績(本年度実績の対象生物量等/前年度の対象生物量等×100)(%)	
達成度(成果実績/目標値(5%)×100)(%)	
協定面積(ha):	本年度の活動面積(ha):
本年度活動した人数(延べ)A:	Aのうちボランティア(*1)の人数(延べ):
Aのうち構成員の人数(延べ):	*1:ボランティアの定義:構成員ではないが、活動に参加した人

項目	評価の視点	配点	点数	ウエイト	項目の評価点 (点数×ウエイト)
成果目標	前年度より対象生物が5%以上増加	5点	0.4		
	前年度より対象生物が3%以上5%未満増加	4点			
	前年度より対象生物が1%以上3%未満増加	3点			
	前年度より対象生物が0%以上1%未満増加	2点			
	前年度より対象生物が減少した	1点			
	前年度より対象生物が減少した	1点			
組織体制	構成員に漁業者以外が参画し、実際に活動している(活動人数全体に占める漁業者以外の人数5%以上)	5点	0.3		
	構成員に漁業者以外が参画し、実際に活動している(活動人数全体に占める漁業者以外の人数3%以上5%未満)	4点			
	構成員に漁業者以外が参画し、実際に活動している(活動人数全体に占める漁業者以外の人数1%以上3%未満)	3点			
	構成員に漁業者以外が参画し、実際に活動している(活動人数全体に占める漁業者以外の人数0%以上1%未満)	2点			
	構成員に漁業者以外が参画しているが、実際の活動はしていない	1点			
	構成員に漁業者以外が参画しているが、実際の活動はしていない	1点			
横展開	講習会、報告会やその他事例を参考に、自らの活動に積極的に取り入れ、改善が図られた	5点	0.3		
	講習会、報告会やその他事例を参考に、自らの活動に積極的に取り入れた	4点			
	講習会、報告会やその他事例を参考に、自らの活動に取り入れるべく検討を行った	3点			
	講習会や報告会に参加するなど他の活動組織の事例の情報収集を行った	2点			
	講習会や報告会に参加するなど他の活動組織の事例の情報収集を行った	2点			
	他の活動組織の事例を参考にしなかった	1点			

評価点(5点満点)

【①成果実績が目標値を下回ったときはその理由、②次年度に向けた改善策及び③適宜評価項目以外の活動の成果を記入して下さい。】

## 4. モニタリング結果整理表(例)

## 4. モニタリング結果整理表(例)

(6) 内水面生態系の維持・保全・改善

モニタリング結果整理表（内水面の生態系の維持・保全・改善）

都道府県： \_\_\_\_\_ 市町村： \_\_\_\_\_  
 活動組織名： \_\_\_\_\_ 記入者氏名： \_\_\_\_\_

●協定面積等  
 協定面積： 2 ha 活動面積： 2 ha モニタリング年月日： 平成28年 月 日～ 月 日  
 モニタリング方法：  水生生物の生息量 ・  ゴみの処理量 ・  外来生物の除去量 ・  その他( )

●活動内容  
 ① 清掃活動 ③ 石倉の設置 ⑤ その他(内容を括弧内に記入してください)  
 ② 河床耕耘 ④ 外来生物の除去 ( )

●ゴミの分布状況

回収日 または 処理日	ゴミの処理量								人工ゴミの内訳と来歴		経費(円)	処理事業者
	自然ゴミ		人工ゴミ				総量		内訳	来歴		
	kg	%	kg	%	kg	%	kg	%				
5月10日	15	100	6	650	4	450	21	750	肥料袋、ホリ容器等	流域住民	4,000	□口市
11月10日	68	350	59	2000	30	1500	127	2350	弁当殻、ペットボトル、古紙	レジャー客	45,000	○〇産業

●外来生物の除去

定点番号	対象生物	除去方法	重量(kg)	備考
L1-1	コカナダモ	刈り取り	200	
L1-2	オオクチバス	釣り	13	

●採捕調査

定点番号	採捕方法	回数・時間	種名	個体数	備考

●その他、活動によって生じた変化があれば記述してください。  
 【記載例】  
 ・家電や古紙等の業者による不法投棄が減ったほか、清掃活動への参加者が前年より増加した。  
 ・地元市町村の広報でも取り上げられるなど関心が高まっている。  
 ・参加者に活動後にアンケートを行ったところ、「活動のことは初めて知ったが、今後も参加したい」など継続した実施を望む意見が多かった。

(7) 漂流、漂着物、堆積物処理

(6) 内水面生態系の維持・保全・改善

モニタリング結果整理表（内水面の生態系の維持・保全・改善）

都道府県： \_\_\_\_\_ 市町村： \_\_\_\_\_  
 活動組織名： \_\_\_\_\_ 記入者氏名： \_\_\_\_\_

●協定面積等  
 協定面積： 2 ha 活動面積： 2 ha モニタリング年月日： 平成28年 月 日～ 月 日  
 モニタリング方法：  水生生物の生息量 ・  ゴみの分布状況 ・  外来生物の除去量 ・  その他( )

●活動内容  
 ① 清掃活動 ③ 石倉の設置 ⑤ その他(内容を括弧内に記入してください)  
 ② 河床耕耘 ④ 外来生物の除去 ( )

●ゴミの分布状況

定点番号	ゴミの量						人工ゴミの内訳と来歴	
	自然ゴミ		人工ゴミ		総量		内訳	来歴
	kg	%	kg	%	kg	%		
St.01	15	100	6	650	21	750	肥料袋、ホリ容器等	流域住民
St.02	68	350	59	2000	127	2350	レジ袋、弁当殻、ペットボトル、古紙の束	レジャー客、業者

●外来生物の除去

定点番号	対象生物	除去方法	重量(kg)	備考
L1-1	コカナダモ	刈り取り	200	
L1-2	オオクチバス	釣り	13	

●採捕調査

定点番号	採捕方法	回数・時間	種名	個体数	備考

●その他、活動によって生じた変化があれば記述してください。  
 【記載例】  
 ・家電や古紙等の業者による不法投棄が減ったほか、清掃活動への参加者が前年より増加した。  
 ・地元市町村の広報でも取り上げられるなど関心が高まっている。  
 ・参加者に活動後にアンケートを行ったところ、「活動のことは初めて知ったが、今後も参加したい」など継続した実施を望む意見が多かった。

(7) 漂流、漂着物、堆積物処理

モニタリング結果整理表（漂流、漂着物、堆積物処理）

都道府県: \_\_\_\_\_ 市町村: \_\_\_\_\_  
活動組織名: \_\_\_\_\_ 記入者氏名: \_\_\_\_\_

●協定面積等

協定面積: 2 ha 活動面積: 2 ha モニタリング年月日: 平成28年 月 日 ~ 月 日  
モニタリング方法:  海藻類の被度 ・  底生動物の生息密度 ・  ゴミの処理量 ・  その他( )

●海藻・海草群落の被度

定点番号	被度※3		対象種名	海藻種の高さ(cm)	備考
	(%)	階級			
L1-1	60		ヒジキ	50	
L1-2	55		ヒジキ	50	
L2-2	45		ヒジキ	60	
L2-2	75		ヒジキ	50	
L3-1	80		ヒジキ	70	
L3-2	80		ヒジキ	70	
平均値 (%)	65.8				

●底生動物(二枚貝類等)の生息密度

定点番号	生息密度(/m <sup>2</sup> )		対象種名	備考
	個体数	重量		
平均値	#DIV/0!	#DIV/0!		

●ゴミの処理量

回収日 または 処理日	ゴミの処理量								主な人工ゴミの内訳	種別	処理事業者	
	人工ゴミ				自然ゴミ							総量
	容積 (m <sup>3</sup> )	重量 (kg)	容積 (m <sup>3</sup> )	重量 (kg)	容積 (m <sup>3</sup> )	重量 (kg)	容積 (m <sup>3</sup> )	重量 (kg)				
5月10日	10	2	150	162	ペットボトル、発砲スチロール	産業廃棄物	〇〇産業					
7月15日	16	5	200	221	ペットボトル、発砲スチロール	産業廃棄物	〇〇産業					
9月15日	50	8	300	358	ペットボトル、空缶、ビニール	産業廃棄物	〇〇産業					
11月10日	200	50	1,200	1,450	ペットボトル、漁具(穴子筒)、ホリ容器	産業廃棄物	〇〇産業					
1月20日	15	2	200	217	ペットボトル、ホリ容器	産業廃棄物	〇〇産業					
3月1日	5	1	15	21	ペットボトル、空缶、ビニール	一般廃棄物	〇〇市					
合計	296	68	2,065	2,429								

モニタリング結果整理表（漂流、漂着物、堆積物処理）

都道府県: \_\_\_\_\_ 市町村: \_\_\_\_\_  
活動組織名: \_\_\_\_\_ 記入者氏名: \_\_\_\_\_

●協定面積等

協定面積: 2 ha 活動面積: 2 ha モニタリング年月日: 平成28年 月 日 ~ 月 日  
モニタリング方法:  海藻類の被度 ・  底生動物の生息密度 ・  ゴミの分布状況 ・  その他( )

●海藻・海草群落の被度

定点番号	被度※3		対象種名	海藻種の高さ(cm)	備考
	(%)	階級			
L1-1	60		ヒジキ	50	
L1-2	55		ヒジキ	50	
L2-2	45		ヒジキ	60	
L2-2	75		ヒジキ	50	
L3-1	80		ヒジキ	70	
L3-2	80		ヒジキ	70	
平均値 (%)	65.8				

●底生動物(二枚貝類等)の生息密度

定点番号	生息密度(/m <sup>2</sup> )		対象種名	備考
	個体数	重量		
平均値	#DIV/0!	#DIV/0!		

●ゴミの分布状況

定点番号	10m四方のゴミ類被度 (%)		平均堆積厚 (cm)	人工ゴミの容積 (m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> )	人工ゴミの重量 (kg)	主な人工ゴミの内訳
	人工ゴミ	自然ゴミ				
St.1	5	5	5	0.25		発砲スチロール類
St.2	2	3	2	0.04		不明プラスチック類
St.3	5	20	15	0.75		外国製漁具(穴子筒)等
平均値	4.0	9.3	7.3	0.29		
ゴミ類全量(容積):	5867		m <sup>3</sup>	ゴミ類全量(重量):	kg	
ゴミ類除去量(容積):	5867		m <sup>3</sup>	ゴミ類除去量(重量):	kg	
除去率(容積):	100		%	除去率(重量):	%	